神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

108
2020.06

Vol.24 No.1 通巻108号　2020年6月15日発行(年4回発行)

昨年度の友の会総会及びイベントの様子

2020年度友の会事業について

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、今年度の総会の開催を中止いたしました。また、講座についても、現時点で8月末までを中止としています。そうした中、今年度の事業計画についてはご承認をいただきましたので、計画に基づいて進めさせていただきます。この状況が一刻でも早く解消し、以前のような活動が再開できることを願っております。

目　次

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
事務部より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
情報クリップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
「訪ね損ねた春の花を訪ねて」田中学芸員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
「幻の『地学G長沼層観察会」田口学芸員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
行事案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

ウイズコロナ時代の友の会

会長　鈴木智明

今年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、４月に予定しておりました第24回友の会総会を中止し、また８月までの講座についても中止とさせていただきました。また今年度の事業につきましては、９月から行う想定での事業計画をお示し、総会書面開催によりご承認を頂いたところです。
会員の皆さまには友の会の主たる活動である講座が中止となったことから、大変ご迷惑をおかけしているところではありますが、何卒、ご理解ください。

さて、新型コロナウイルスにより世界全体がこのように大きく変わるとは予想いたしませんでした。３密（密閉、密集、密接）を回避するため、職場や学校では自宅待機やインターネットを活用したテレワークなどの対応が取られました。博物館も３月４日から臨時休館となり、また４月の緊急事態宣言を受け、８月までのイベントは中止又は延期となりました。６月時点ではだいぶ状況は落ち着いてきており、博物館も７月から再開館となりましたが、いまだ根本的な対策がない状況での措置であり、今後も予断は許しません。非常事態宣言は神奈川県では５月 25 日に解除され、外出自粛や休業要請といった措置は解除されましたが、今後は「ウイズコロナ」時代をどう受入れ、生活していくのかが、私達の大きな課題となります。テレワークなどネットを活用した対応が社会的に広まりました。インターネットによる情報提供は増えて来るとは思いますが、自然を親しむにはやはり外に出て触れることが必要です。そのため、友の会のイベントや講座も、適切な感染防止対策を講じ、対応して参りたいと考えています。その際には今まで同様にご参加くださるようお願いいたします。

ウィズコロナ時代、個人的には、遠くへの移動や多人数の集まりを避け、『身近な自然』を楽しみたいと思っています。

会員の皆さまにおかれても、当面落ち着かない状況が続くかとは思いますが、お体に気をつけてお過ごしください。
また一年、よろしくお願いします。

26 度目の春

館長　平田大二

生命の星・地球博物館友の会会員の皆さまには、常日頃より当館の運営と活動について、ご理解とご支援、ご協力をいただいていますこと、あらためてお礼申し上げます。

当館は今年で 26 度目の春を迎えました。例年ならば梅から桜、そして新緑と自然を楽しむ格好の季節となり、博物館も大賑わいとなるところですが、今年はご存知の通り様相が一変しています。新型コロナウイルス感染症は、驚くべき速さで世界中に広まりました。そして、それは私たちの命と暮らしに大きな脅威となっています。治療の最前線で働いている医療従事者をはじめ、様々な場所で私たちの命と安全を守るために働いてくれている人たちがいます。友の会会員の皆さんも感染症拡大防止のため仕事や生活などあらゆる場面で対応されるとともに、我慢されていること、困っていることも多々あるかと思います。しかし、今は命を守ることを優先に考えることが大切ですので、もう少しお互いに協力し合いましょう。当館の臨時休館も 6 月 30 日までとなり、8 月 31 日までは予定していた展示や行事等は中止・延期としました。博物館を楽しみにされている皆さまにはご不便をおかけしますが、ご理解のほどお願いします。姿が見えない相手にまだ先が見通せない不安もありますが、この事態が早く終息することを願うばかりです。

さて、日本では毎年のようにどこかで自然災害が発生しています。箱根地域でも昨年は、2015 年に続いて火山性地震活動と噴気活動が活発となり、大涌谷周辺への立ち入り規制が行われました。また、台風 19 号の記録的な豪雨では、土砂崩れによる箱根登山鉄道の橋脚や県道の流出など、大きな被害がでました。当館の横を流れる早川も大増水し、あわや氾濫かと冷や汗を流しました。自然災害も他人事でなく、自分の事として捉えることが肝要です。今後、博物館も地震や火山噴火、台風、水害、火災など、あらゆる災害を想定した防災対策を検討していかなければなりません。

当館が次の四半世紀さらに将来に向けて、様々な課題を乗り越えて持続可能な活動を進めていくためにも、これまでと同様に友の会のご理解とご支援、ご協力が必要です。今後もよろしくお願いします。

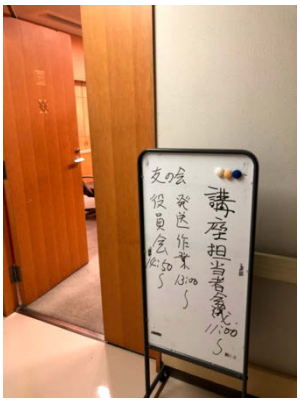
事務部より

2019 年度友の会第6回役員会の開催

2020 年 3 月 21 日（土曜日）午後より、発送作業及び第 6 回友の会役員会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、前の週に行われる予定だったミューズフェスタは残念ながら中止となりましたが、役員会は 4 月の総会の準備等もあるため実施しました。役員会では、会員及び会計状況報告、事務部からは 4 月の総会に向けた作業（残念ながら中止となってしまいましたが）や実施の判断等について、広報部からは次回 6 月発行の友の会通信 108 号の構成等について、企画部からは当日午前中に開催された講座担当者会議及び来年度の行事計画についての報告がありました。

その他に、博物館のホームページのリニューアルに伴い、友の会通信のバックナンバーの情報を公開していくことなどが決まりました。



●友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）

Tel:0464-21-1515 E-mail:kpmtomo@ybb.ne.jp

訃報

長年、友の会活動にご尽力頂いた地学グループの中村良さまですが、令和２年１月 16 日にご逝去されました。72 歳でした。

今までのご活躍に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

情報クリップ

友の会会員数：355名（5月1日現在）
正会員：354名／賛助会員：1名

●博物館人事異動（令和２年４月１日付）

〈学芸部〉

異　　動：石浜 佐栄子（前・企画普及課）

〈企画情報部〉

転　　入：企画情報部長 飯田 泰道

〈企画情報部 企画普及課〉

異　　動：大西 亘　（学芸部兼務）
新規採用：下出 朋美（学芸部兼務）
新規採用：坂巻 功

〈企画情報部 情報資料課〉

転　　出：鈴木 まり絵
新規採用：平澤 恭子

〈学習指導員〉

新規採用：高橋 正人

●退職（令和２年３月31日付）

田邊 勉　　（前・企画情報部長）
芝山 一彦　（前・企画普及課）
市川 美紀子（前・学習指導員）

●2020年度 友の会担当職員のご紹介

企画普及課長：佐藤 武宏
学　芸　部：樽 創
　　渡辺 恭平
企画普及課：本杉 弥生（友の会総合窓口）

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館
企画普及課 TEL：0465-21-1515　FAX：0465-23-8846

※博物館は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館しておりましたが、７月１日(水）から再開館いたします。

最新の情報は、博物館ウェブサイト、および公式 Twitter（@seimeinohoshiPR）などをご確認ください。

訪ね損ねた春の花を訪ねて

学芸員　田中徳久

友の会会員のみなさん、どのようにお過ごしでしょうか。新型コロナウィルス感染症蔓延防止のため、2 月後半よりイベント等の開催を自粛し、博物館も 3 月 4 日から臨時休館した後、4 月 7 日に緊急事態宣言が発令され、みなさんも野外での活動をかなり控えられたことと思います。その後、神奈川県では、5 月 25 日に緊急事態宣言が解除され、現在、博物館も 5 月 1 日の再開館に向け、準備中ですが、友の会のさまざまな企画も含め、イベント類は 8 月 31 日まで中止となっており、会員の皆さんに観察会などでお会いできるのはまだ先になりそうです。そんな中、中止になった観察会がわりに記事を…とのことでしたので、前置きが長くなりましたが、4 月 17 日に開催予定の「春の花を訪ねて」の観察地、片倉城址公園について紹介します。季節はすでに夏に向かっていますが、「春」を話題の中心にします。

片倉城址公園は、東京都八王子市にある、室町時代に築城された片倉城の城跡を中心とした、その周辺の自然環境の保全を目的とした公園です。春のカタクリやヤマブキソウ、初夏のショウブなど、花の名所としても知られています。あまり記憶が定かでないのですが、私がまだ大学生であった 30 数年前にカタクリの花を見に行った記憶があります。公園の名前にもなっている片倉城は、別名を八王子城とも言い、扇谷上杉家の家臣である長井氏が拠ったとされ、1569 年に武田信玄と北条氏の間で勃発した三増峠の戦いでは、北条氏照と北条氏邦が、三増峠に向けて出陣した城になります。現在は、二の丸広場周辺に空堀などの遺構を見ることができます。

さて、片倉城址の春の植物です。有名なカタクリ（写真 1）は、例年ですと、4 月初めが見頃です。その後、観察会が予定されていた 4 月 17 日頃には、イチリンソウ（写真 2）やヤマブキソウ（通信第 23 巻 4 号通巻 107 号に写真で紹介）が花の盛りを迎えます。特に奥の沢のヤマブキソウの群生（写真 3）は見ごたえがあります。これらの植物は、春植物（スプリング・エフェメラル；春の妖精）と呼ばれる一群で、春早く、落葉樹の下で、樹木が芽吹く前の明るい林床で、短期間のうちに一斉に花を咲かせ、その後、翌年の花を咲かせるために養分を蓄え、夏には地上部は消えてしまいます。他にセツブンソウやフクジュソウ、エンゴサクの仲間がそう呼ばれます。これらの春植物の多く（特に東京や神奈川などの低地～丘陵地のもの）は、今より寒かった時代に、低地まで広がって来た落葉広葉樹と一緒に分布を広げましたが、その後、温暖な時代になり、落葉広葉樹が北への衰退していく際、人間の手によって維持・管理されるようになったいわゆる雑木林に住処を移し、生き残ってきたものだとされます。

写真 1．春植物の代表選手とも言えるカタクリ

写真 2．イチリンソウ

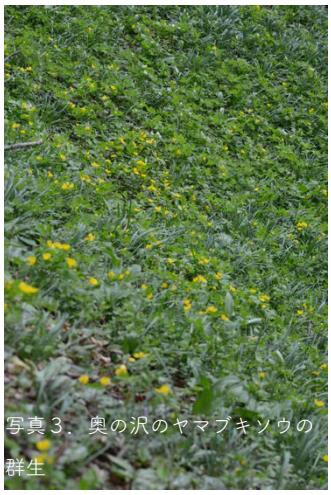


写真 3．奥の沢のヤマブキソウの群生

また、雑木林は、薪や炭、堆肥の材料を得るため、人間の手により、維持･管理されて来ましたが、人間の生活様式の変化により、薪や炭は使われなく、堆肥も化学肥料に代替されるようになると、その材料供給の役目も失われ、徐々に、維持･管理されなくなりました。そのため、林床がアズマネザサに被われたり、常緑広葉樹化するなど荒廃し、前述の春植物の生活の場も失われつつあります。とは言え、近年では、これらの植物の保護やリレクレーションの場として、生業としてではなく、雑木林を維持・管理していく動きもあり、片倉城址公園の雑木林も、公園としての景観維持も兼ね、雑木林の維持・管理が行われています。

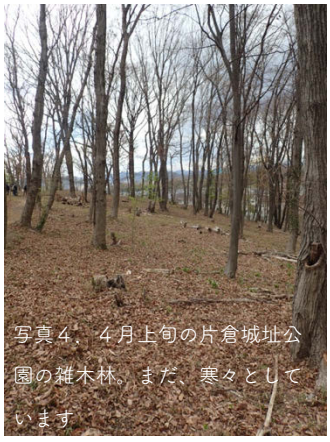


写真 4．4 月上旬の片倉城址公園の雑木林。まだ、寒々としています。

幻の「地学 G 長沼層観察会」

学芸員　田口公則

リベンジ企画として 5 月 16 日の実施を楽しみにしていた『横浜市栄区田谷町周辺の長沼層観察会』は、コロナ禍のために中止となりました。リベンジとあるように、この観察会の中止は 2 度目になります。まさに幻の観察会になってしまいました。

友の会地学グループとの観察会は、スタッフ皆で実施しています。それは私にとっていろいろな試行のチャンスです。また、地域での観察会を企画することは、その地域のことをあらためて勉強したり、現地の情報を収集するという、いわば調査研究に通じる活動にもなっているのです。

またも中止となってしまった「長沼層観察会」、どのような企画での観察会を考えていたのか、誌面をお借りしてちょっとだけ紹介しましょう。

田谷の洞窟で地層観察！

今回の観察会は、横浜市栄区田谷町～長沼町～飯島町周辺に点在する相模層群長沼層（約 60 万年前）等の地層・化石等を観察するというふれこみでした。

大船駅集合の後、バスで田谷まで移動。最初の Stop の定泉寺「田谷の洞窟」が、今回のハイライトとなります。じつは、今回の観察会で巡る Stop の中で、ここが一番露頭（地層）が現れていて地層や貝化石を観察できる唯一の場所なのです。

田谷の洞窟の正式名称は田谷山瑜伽洞（ゆがどう）。地層を掘って作られた人工洞窟で、種々の仏像、梵字、仏画が刻まれた修験洞窟です。人工洞窟ですから、洞窟内全てが地層の露出（露頭）です。洞窟で全国 188 札所を巡拝しながら、長沼層や時に出現する貝化石の様子にも目を向けてみるという、心清らかな地層観察を予定していました。

狭い洞窟内では、参加者 25 人がいっぺんに 1 つの対象物を観察することはできません。いまなら、それこそ「3 密」になってしまいます。洞窟内の詳細地図を片手に各自で巡拝。その後、地図を見せ合いながらの情報共有を考えていました。

じつは洞窟内は撮影禁止ですので、スマホでパチリという記録ができません。参加者みなさんの地図を把握する力と、見つけた化石を目に刻む力が試されるのです。

「どこそこに化石があったよね」

「その巻貝、私も見たわ。こんな貝でしたよね」

「僕は見逃したぁ。どこにあったの？教えて！」

等々、と各自が見つけた情報をもとにしながら楽しい会話ができたら面白いと思ったわけです。

昔を想像しながら地質図片手に街中ウォーク

田谷の洞窟の見学後は、長沼町～飯島町をぐるっと歩く行程となります。地質図片手に足下の長沼層の分布をイメージしながらのウォーキングです。

かつてはそこここに長沼層の露出があったと聞きます。昭和の時代、長沼周辺は化石採集地としてガイドブックの紹介に挙がっていました。貝化石も多数見つかることで知られ「貝殻坂」という地名が残っているほどです。しかし、残念ながら現在ではコンクリート擁壁等の整備により、すっかり露頭は消滅してしまいました。でも、ちょっとだけ顔を出している露頭が残っていたりします。もしかすると観察会でも貝化石を見つけたかもしれませんね。つぎの機会に期待しましょう。

地層や化石の観察は難しくなってしまいましたが、その分フィールドワークでの調査が増えてきました。それは、地元に方々からの情報収集です。かつて地層や化石の様子を知っている方から聞き取りしておこうというわけです。

この『長沼層観察会』は、その意図をもっての企画でした。数年前、友の会地学 G のメンバーの（故）中村良さんから「田口さん、ぜひ、来年の企画を！」と持ちかけられ「それでは、中村さんのなじみある長沼層でやってみましょうよ」とすぐに決まりました。中村さんが少年時代に駆け回った長沼のことをうかがいながらの観察会はついに幻となってしまいました。ここに謹んで哀悼の意を捧げたいと思います。

「かいがら坂」の標識

活動報告（よろずスタジオ）

◆「砂と遊ぼう」

2020 年 1 月 19 日（日）／博物館講義室／197 名（大人 101 名、子供 96 名）／石浜学芸員、地学ボランティア８名

毎年１月に実施している、よろずスタジオ「砂とあそぼう」。今回も親子で一緒に楽しめる「砂でお絵かき」を行いました。
色画用紙に、スティックのりで絵や文字を書き、好きな色の砂をかけていきます。今回用意したのは５色の砂ですが、そのうち４色は神奈川県の河原や海岸の砂なのです（残りの１色はサハラ砂漠の砂）。身近な砂にも、いろいろな色の粒があるものですね。自分の作品を描きながら、砂の特徴にも少し気を留めてもらえたら嬉しいです。

今回は５色の砂を使いました

家族みんなで楽しめます

◆「セミの体を見てみよう」

2020 年 2 月 16 日（日）／158 名（大人 82 名、子供 76 名）／渡辺学芸員

待ちきれず開始時刻前にドアを開けて中を覗く子供たち。開場と同時に各コーナーのテーブルに散らばっていきました。開始時に人気があったのは「せみの一生」の紙芝居。席が足りず追加するほど。他のコーナーは「セミはどこで鳴く」「セミの標本」「セミの口」「オスメスの見分け」「セミパズル」。各コーナーを回るとセミの体の工夫が分かる仕組みです。実体顕微鏡を覗いてセミの体の構造を見ていた親子からは「なるほど」の声が聞こえてきました。ジグソウパズルはセミ５種とチョウの２種。特にアブラゼミが難しく完成させた方は７名しかいませんでした。完成までに１０分を超える方が多かったのですが、よろずスタジオ終了間際に順番待ちをしていた少年は見事７分で完成させ１５時に間に合いました。　　（スタッフ：鈴木）

これが身近なセミだよ

セミのぬけがら

活動報告（地図を楽しもう）

2020 年 2 月 9 日（日）／博物館実習実験室及び博物館周辺・箱根湯本／８名／新井田学芸員

いきなりですが、地図を読む極意とは何でしょうか。講師の新井田さん曰く、①予想(想像)する。②今いる場所のまわりをよく見る。③道など歩く方向を間違えたら立ち止まる。だそうです。本講座ではこの極意を一人でも多くの皆さんに会得していただくことを目指しています。プログラムは午前中は講義、午後はフィールドワークです。教材は国土地理院２万５千分の１地形図「箱根」。また新井田さん特製の博物館・箱根湯本周辺の５千分の１地図を使用しました。

午前中は博物館実習実験室で地形図の、図法、縮尺、地図記号、図上の真偽などについて学んだ後、地形図をもって展望デッキに出ました。実際の景観と地形図に描かれ方の違い、その際どのような点に気を付けるのか、どんな目標物が地図を読むうえで便利なのかを教えていただきました、

午後はブラタモリならぬブラニイダ。全員地図持参で歩きました。実際と地図との違い、地図から得られる情報、現物と地図を見比べて分かることなどなど、地図のプロ新井田学芸員から解説を受けながら歩きました。解散は小田原馬車鉄道・電気鉄道箱根湯本駅跡。参加者の方から、普段は何気なく通っているところですが、地図を持って観察してしっかり解説していただくと、こんなにも見えてくるものがあるのかと新発見の連続でした、との感想をいただきました。参加者の皆さま、新井田さん、ありがとうございました。

（友の会　関口）

博物館展望デッキで地図の情報と現物をあわせる

地図と現地の様子を見比べる

早川と須雲川の合流地点を地図と照らし合わせる

活動方向（サロン・ド・小田原）

第 137 回サロン・ド・小田原「テフラって何？–なぜ調べるのか、何が分かるのか」

2020 年 2 月 23 日（日）／博物館西講義室／28 人／西澤文勝学芸員（当館学芸員）

小生は当博物館の笠間先生（先の担当学芸員）の下で火山灰の洗浄、整理、噴火実験等の作業のお手伝いを少しだけさせていただきました。

今回担当となられた西澤先生は大変几帳面、綺麗好きな方で、初回活動の前に我々ボランティアの作業場である水回りをお一人で再整理、清掃を断行され、科学者のポリシーを垣間見た初印象でした。

さて、講演の感想ですが、テフラの定義から、火山噴火の産物、噴火の規模、頻度、歴史決定の１ツールとなる地層（鍵層）を分かり易く説明していただきました。また広域的

な噴火活動の 1 例としてのチバニアンにも言及された時、認定前で笠間先生の時代、「行きましょうか？」という話があった事を思いだしました。この話は、歳のせいで実行できませんでした。

今、コロナ禍の真っ最中ですが、後世の人類が露頭の観察をできること（我地層を観る、故に我生存す！）、そして西澤先生の更なるご活躍を祈念して筆をおきます。

（松井理作）

話題提供者の西澤文勝学芸員

途中で標本の見物

講演風景

火山灰の観察

行事案内

ご案内のとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、８月３１日（月）までの講座を中止としています。また、９月１日の植物観察会「初秋の高原の花々」（長野県富士見町）についても中止といたします。

その他の講座については、実施の有無が確定しだい、友の会ブログや博物館 HP などでお知らせいたします。

ー広報部よりー

今回は、新型コロナウイルス感染症対策等により、講座が当面中止となり、友の会通信においても紙面の変更を余儀なくされました。そうした中、博物館の田中学芸員及び田口学芸員のご協力により、特別原稿をいただきました。お二人に感謝するとともに、会員の皆さまも疑似観察会をお楽しみいただければ幸いです。

次号は、2020 年 9 月 15 日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.24、No.1、通巻 108 号 2020.6.15 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031　神奈川県小田原市入生田４９９
TEL：0465-21-1515　FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo
Twitter：@kpmtomo